

[築地活字]

今も鑄造される 金属活字

鉛を溶かして活字を作り、
文字を組み合わせて印刷する

文具女子にはファンの多い活版印刷のアイテム。一筆箋やカードが人気ですが、活版印刷の本来の魅力は独得の文字の美しさ。活版ならではの凹凸と陰影、凛とした佇まいの名刺やカードを手にして、思わずハッとすることがあります。そんな文字の存在感を生み出しているのが、金属活字です。

横浜の「築地活字」は、全国でも数少ない活版印刷の活字を鑄造する専門工房。創業百年の歴史を持ち、母型と呼ばれる活字の型、約26万個を所蔵。金属活字にインキをつけ、紙に圧着させて印刷するため、二百文字の文章ならひらがな漢字、記号など二百本の活字が必要です。印刷物によって活

字のサイズ、書体も使い分けます。活字づくりから印刷まで、職人の手仕事で継承されたこだわり、ものづくりへの想いがこめられている……。そんな活版印刷、活字の魅力にふれてみませんか。



活字鑄造に取り組む大松初行さん。

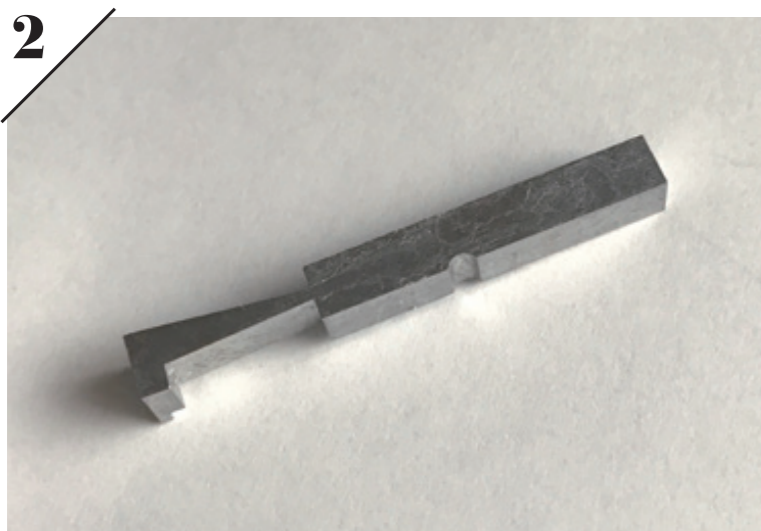
取材先：
活版活字プロジェクト 字心
jigocoro.net/

築地活字
@tsukijikatsuji
tsukiji-katsuji.com/



インゴットを 熱して溶かす

活字の鑄造とは金属を溶かし、鑄型に入れて鑄物（活字）を造りだすことです。金属活字の元になる地金（インゴット）は鉛、錫、アンチモンの合金（写真上の金属）。これを活字鑄造機の炉の中で350～400℃くらいで熱して溶かし液状にします。



活字のボディが できあがる

溶かされた金属は、鑄型に流し込まれ、水で冷却され瞬時に固まります。鑄型により立方体の形に成形されます。

活字のしっぽに付いているのは、贅片（ぜいへん）、jet（ジェット）と呼ばれます。この部分は切り取られます。



活字のボディサイズを 確認する

できあがった活字のボディを4つ並べてサイズを計測します。このボディサイズが文字の高さ、幅になります。

活版印刷の楽しみ方、いろいろ |



金属活字は工夫次第で色々な楽しみ方ができます。文字を組み合わせた金属活字をクリップやセロハンテープで固定、インクをつければスタンプがわりに。



「花形」と呼ばれる活字の記号は1本130円、装飾された記号やマークがいろいろ揃っています。ダイアリーのスタンプにもぴったり。



築地活字、アーリークロス、なまためプリントと横浜の3社で取り組む活版・活字プロジェクト「字心」のオリジナル葉。活版の魅力伝えるセミナーやワークショップも計画中とか。興味のある方はサイトをチェック！



金属活字ホルダー。専用ホルダーに活字を組み合わせて固定、カードや封筒にもポン押しできます。こちらも購入可能。



4 母型をセットする

サイズの調整を終えて、鋳型の先端に「母型（文字の型）」をセットします。「母型」は真鍮でできた金属で、文字が左右反転して彫られています。選んだ母型の文字は「令和」の「令」です。



5 鋳造された活字

鋳造された活字

いよいよ活字を鋳込んでいきます。ボディと文字が一体となった活字が次々と機械から押し出されてきます。この段階でも、文字の中心が正しい位置にきているかをチェックします。できたばかりの活字を手にしてみました。



6 文字を組む

文字を組む

印刷用に金属活字を使って文字を組みます。文字は「ガレー」と呼ばれる箱の中に金属活字を左右反転させて並べます。文字以外の部分はインテルや込物（こめもの）と呼ばれる活字より低いものを並べます。最後の文字はあえて活字を上下反対に置きました。こうすると下駄（■）の形が現れます。下駄は活字がないときに代用された記号です。